

平成29年度放射線安全取扱部会年次大会 (第58回放射線管理研修会) のご案内



放射線安全取扱部会 部会長 上 蓑 義朋

平成29年度の放射線安全取扱部会年次大会及び第58回放射線管理研修会を、10月12日(木)と13日(金)の2日間にわたって、兵庫県淡路島で開催いたします。

今回は近畿支部が担当します。実行委員会では様々な検討をした結果、初めて“島”で開催することになりました。淡路島は阪神・淡路大震災の震源として記憶に新しいですが、百人一首にも詠まれた歴史ある地です。しかし神話によれば、いざなぎ、いざなみの尊によって最初にできたのが淡路島であり、そこを拠点に大八洲(おおやしま:日本列島)を作ったのだそうです。つまり今回は日本の原点での開催とも言えます。

年次大会・研修会は、放射線取扱主任者を対象にした唯一の集会です。日ごろ管理を担当されていると、出張する機会はありませんかと思えます。放射線管理に関する勉強会として、情報を集め、視野を広げるとともに、同じ仕事をする方々との横のつながりを得る絶好の機会です。また期間中には相談コーナーが設けられます。それぞれの事業所で抱えておられる悩みを個別に相談することもできます。

勉強会の目玉として、原子力規制庁による「放射線安全管理行政の動向」と題した講演があります。今年は法律が改正され、まず名称が「放射性同位元素等の規制に関する法律」になりました。現場に大きく関係する教育訓練、定期講習、セキュリティーに関しても改正されました。改正に際しては部会と

しても、アイソトープ協会が原子力規制庁から受託した調査に加わる形で関わりました。これは主に今後改正される規則として現れますが、その内容について詳しいお話を伺えると思えます。講演に引き続き、シンポジウムⅠ「法令改正を踏まえた事業所の取組」が計画されており、それぞれの事業所では何をすべきか、何ができるかが分かると思えます。

シンポジウムⅡでは「主任者のスキルとしての緊急時モニタリング—そのプラットフォーム構築のための教育研究の試み」が紹介されます。これは放射線安全に係る団体である部会も協力すべきと考えています。

特別講演Ⅱ、Ⅲとして、「核医学イメージングでわかる情動のメカニズム—“ときめき”の脳科学」と「フクシマから始める疫学入門」という2つの興味深い話題が用意されています。

島とはいえ、淡路島は本州、四国と橋で結ばれており、会場までは新神戸、三宮から高速バスに乗って約60分で着くことができます。しかしさすがに夜は歩く距離に行くべき場所は少ないので、交流会の後にもナイトセッションなどが企画されており、夜も含めて2日間の会期中は、勉強と主任者同士の交流にめいっぱい取り組んでいただけます。

多くの皆さまにお会いできるのを楽しみにしております。

(理化学研究所仁科加速器研究センター)